

市内循環バスにおける今後の課題

- 1 市内循環バスにおける今後の課題
- 2 別紙1 (市内循環バス通勤時ルート)
- 3 別紙2 (市内循環バス日中時ルート)
- 4 別紙3 (MMシャトル車両台帳 (平成27年10月28日以降))

1 市内循環バスにおける今後の課題

(1) 現在運行中のルート

バス車両 11 台を用いて、次の 4 ルートを運行している。

ルート名	運行時間帯
上北台ルート	通勤時・日中時
玉川上水ルート	通勤時・日中時
武蔵砂川ルート	通勤時のみ
西 ル ー ト	日中時のみ

(2) 考えられる問題点

バス車両の老朽化等に伴い、順次車両の買替えを進めているところであるが、現在入手可能な車両（日野自動車製 日野ポンチョ）は運行が不可能となる地域が存在しており、現行ルートの維持に支障が生じることになる。

新型車両での運行ができないルート及び箇所については、武蔵砂川ルート及び西ルートの「三ツ藤中央通り」（三ツ藤住宅内）である。（別紙 1 及び 2 参照）

※ 補足：三ツ藤中央通りへは、平成 25 年 4 月 1 日からのルート再編の際に、地域住民（自治会）からの要望があったため乗り入れを開始した。

(3) 現行のルートに支障が生じる理由

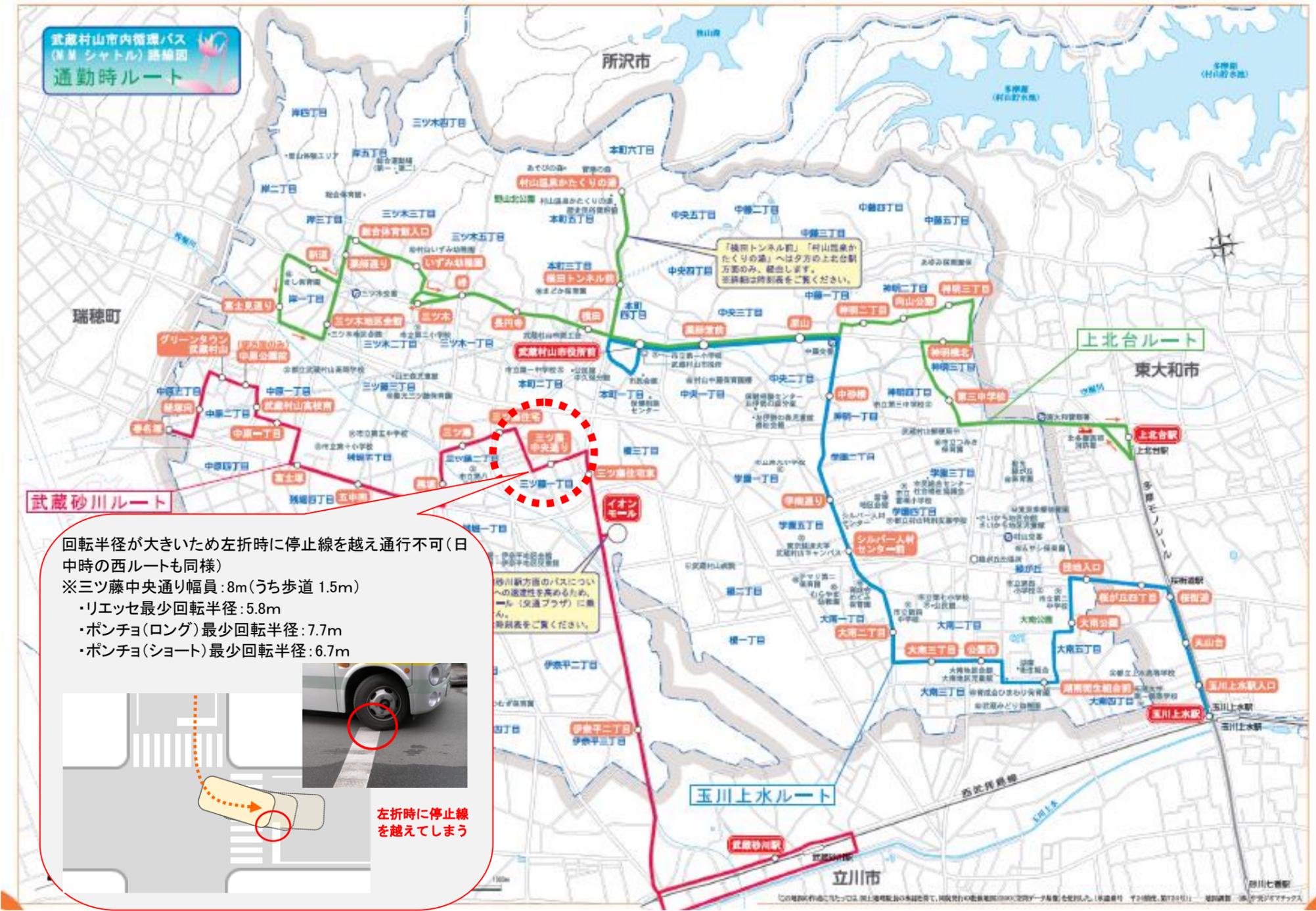
項 目	理 由
車両の問題	旧型車両に比べ、ホイールベース（前輪と後輪の距離）が延長されているため、車両の回転半径が大きく、三ツ藤住宅内の交差点を左折した際に、車両前部が対向車線にはみ出してしまう。全長の短いワンドア仕様のポンチョ（ショート）であっても、最小回転半径は旧型車両より大きくなり、通行不可である。 ※ 交通管理者からは、旧型車両のみでの当該箇所の通行を許可されている。
運用の問題	市内循環バスは、ルートごとに決まった車両を割り当てて運行している訳ではなく、運転手の休憩等の関係から、各車両が各ルートへ交替で乗り入れ運行している。したがって、三ツ藤住宅を通行することができない新型車両が増加することに伴い、これまでどおりの運用が不可能になる。

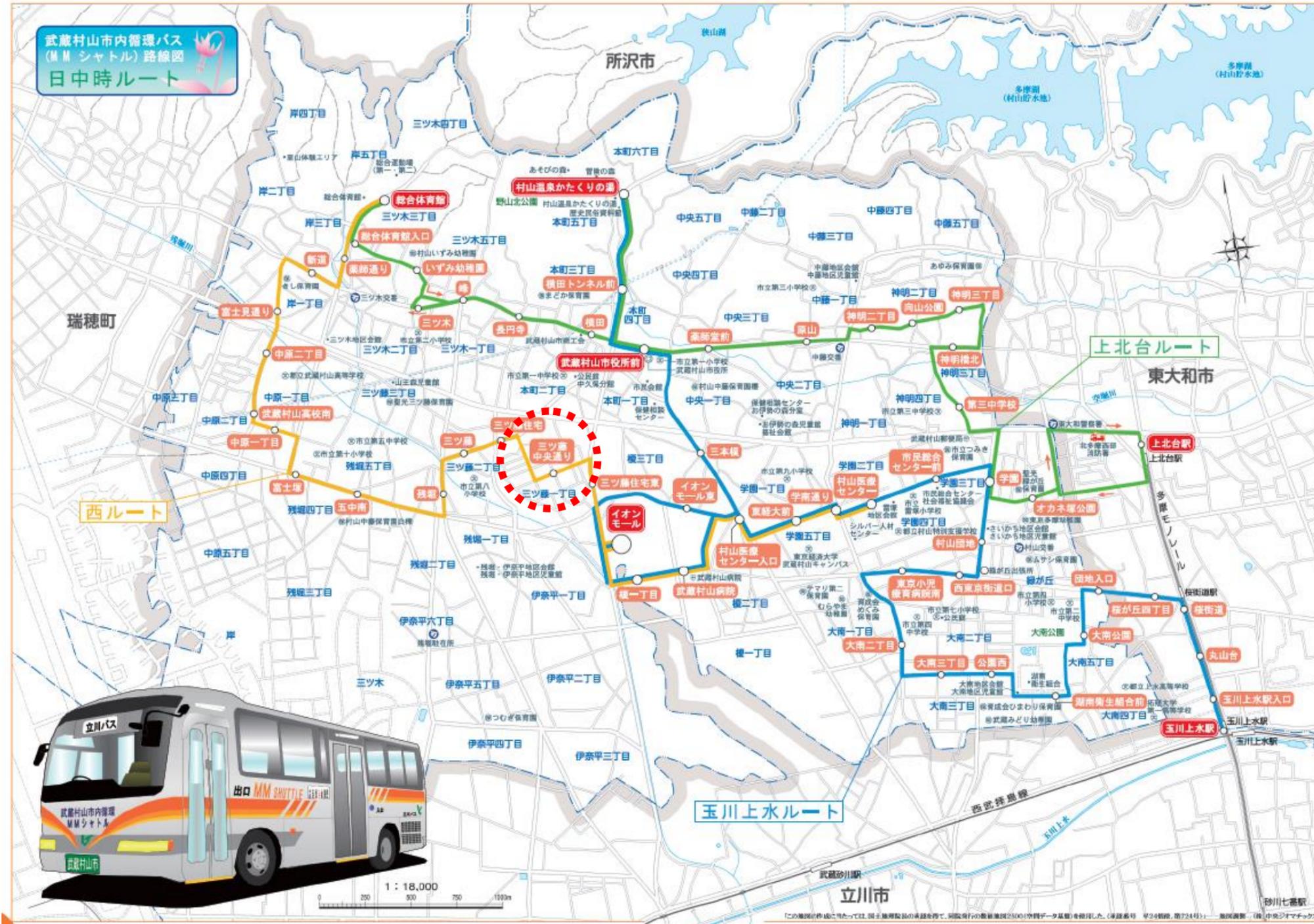
(4) 運行事業者におけるバス車両の保有状況（別紙 3 参照）

現時点（平成 27 年度）において、11 台の保有車両のうち、3 台が新型車両に更新されているが、今後、計画的な買替を進めて行く予定

(6) その他

進捗状況及び必要性に応じ、地域公共交通会議の開催を予定している。





MMシャトル車両台帳(平成27年10月28日以降)

車両写真	車番	三ツ藤 中央通り	形態	車種	年式	定員	走行キロ(km) (H27.11.30時点)		
	M08	運行可	リース	日野 リエッセ	平成11年式	39人	858,585		
	M11						824,900		
	M13						866,206		
	M14						853,145		
	M24		購入	三菱 エアロミディ	平成15年式	34人	584,812		
	M25						608,694		
	M26						625,582		
	M27				平成17年式	32人	529,743		
	M36				運行不可	日野 ポンチョ (ロング)	平成24年式	36人	145,139
	M41						平成26年式		55,780
	M42	平成27年式					5,341		

※M24号車以降はノンステップ及びアイドリングストップ機能付き車両